

カトリック

学報

第51号



St. Catherine University

聖カタリナ大学 / 聖カタリナ大学短期大学部

2023. 12. 1



カトリック大学におけるイデオロギーの問題

学校法人聖カタリナ学園理事長 中田 婦美子



現代、日本のカトリック大学がいわゆる世のイデオロギーに対してどのように向き合うべきかを考える。イデオロギーというのは、民族、政党などの集団に顕著にみられる思考様式であり、現代に生きる教育機関に極めて巧妙なしかたで教職員及び学生生徒の思考経路に影響を与えていた。特にカトリック教会の教皇フランシスコが教育に携わる方々がマスコミの波に乗って世論に迎合することのないように、イデオロギーへの正しい識別をもつて警鐘を鳴らしていることについて共に考えたいと思う。

先に、日本の広島での主要7か国首脳会談（G7サミット）が開催された折、主要なテーマの一つとして「核兵器のない世界」が議論されたが、日本の広島教区の白浜司教からの要請に応えて、教皇フランシスコは、G7首脳に訴えるという見出しで、カトリック新聞の中で次のように述べている。「核兵器の使用は人類とその尊厳に反するだけでなく、私たちの共通の地球の未来におけるあらゆる可能

性に反する犯罪である。」と強調している。結局被爆地広島で開催されながら、結果的にはG7の「軍事的結束」を鮮明にして、「核兵器のない世界に向けて取り組んでいく決意を共有した」という核抑止力を肯定する立場を維持する程度にとどまり、当事国である日本は世界に向けて発信できる最も重要な使命があるにもかかわらず核軍縮に対する消極的姿勢に終ってしまったことは誠に残念なことであった。

この度スウェーデンのダニエル・ホグスタ氏（ICAN：核兵器廃絶国際団体の事務局長）は、このことに関して、日本の新聞に次のような記事を投稿している。「非常に残念なのは、参加者たちが被爆者に会った後に、核兵器の防衛目的の役割に言及していることだ。日本が核保有国と非保有国の橋渡し役を自任するなら、核禁止条約に関与するべきだ。日本の政治指導者が核兵器の傘が自国の安全保障にとつて今までに信頼できる方策だと考えていることは危険なことなのだ。」という言葉はまさに

日本に対する時宜を得た警告であると思う。

特に教皇はカトリック大学教育の理念は、政府の見解がいかなるものであれ、その時代の文化の要請が人類の眞の幸福と平和を願うものでなければならぬといっている。特に高等教育における教育者とそこで学ぶ学生たちは、世論のいわゆるイデオロギー的な概念に左右されない眞理の立場を堅持するべきであろう。また、国策が常に正しい判断をなすことができない場合には、民意からの忍耐強い発言は常に必要なことだと思う。

今年3月に88歳で亡くなった大江健三郎氏は、愛媛県喜多郡内子町大瀬地区に生まれ、1994年に川端康成に次いで日本人として2人目のノーベル文学賞受賞者で、戦後の日本の在り方に大きな示唆を与えた。日本文化が第二次世界大戦の惨禍を招いたように、現代も同じ思想に危険なほど傾いていると感じ、平和主義を掲げる代表的論客として知られている。それは、日本の憲法第9条は、明確に「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国權の發動たる戦争と武力による威嚇、または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。」と宣言し、それをあくまでも死守するという信念に基づいている。大江氏は2004年に結成された憲法改正に反対する「九条の会」の発起人となり、脱原発を訴える呼びかけ人として社会問題に積極的に取り組まれていた。

たとえば、愛媛県における伊方原発の再稼働に反対する運動は何年にも及び「さよなら原発1000万人アクション実行委員会」の署名運動にも日本政府は全く耳を貸さず、イデオロギーの持つ問題の深さを今さらながら感じている。さらに、この度、政府はミサイル発射拠点などをたたく「敵基地攻撃能力（反撃能力）」の保持を認めるに至っては、敵基地攻撃能力の保有は専守防衛という安保条約の大原則を根本から覆すとして訴えている。米国への過度な軍事依存から脱却し、アジア外交と多国間主義を強化すべきだとする提言がなされたが、共同声明では、日本の新たな安保政策に米国が「強い支持」を表明し、結局「日米間の協力を深化させる」結果となることを朝日新聞の社説も報じている。

このような現状の許で、最近日本政府は福島原発後の汚水処理問題と今回の沖縄辺野古の基地埋め立て地についても地元市民の反対を押し切り裁判で政府主導の結論を出したことについても、国民の民主主義的意志の前に常にイデオロギーの壁が立ちはだかっているのがわかる。

カトリック大学として本学の使命は、決してこのような政治的イデオロギーに左右されることなく、世界の平和に貢献できる日本国民としての見識をもって、愛と眞理の建学の精神を堅持する教育を掲げて世の証しとなるように努力したいと改めて思う。

◆◆ St. Catherine News ◆◆

● 「カタにゃん」の公式Instagram・Facebook・X（旧Twitter）アカウントの運用を開始

カタにゃんの公式Instagram・Facebook・X（旧Twitter）アカウントの運用を開始しました。

カタにゃんが、学内の風景、イベント情報、その日にあった出来事などをご紹介します。学内外の様々なところで更新いたしますのでお楽しみにお待ちください。



●強化指定クラブ：女子バスケットボール部

全四国大学バスケットボール新人大会優勝

全四国大学バスケットボール新人大会の試合を勝ち抜き、皆様のご支援・ご声援をいただき、大会2連覇いたしました。



●強化指定クラブ：サッカー部

第50回愛媛県サッカーリーグ

（1部）優勝

昨年度行われました第50回愛媛県サッカーリーグ（1部）について、先日愛媛県サッカー協会様から表彰されました。



●看護学科 寺尾奈歩子講師が看護学研究奨励賞受賞

看護学科 寺尾奈歩子講師が日本私立看護系大学協会2023年度看護学研究奨励賞を受賞しました。

論文名は「A qualitative study of blood glucose and side effect self-management among patients with type 2 diabetes undergoing chemotherapy for cancer (がんと診断され化学療法を受ける2型糖尿病患者の血糖と副作用の自己管理プロセス)」です。

Asia-Pacific Journal of Oncology Nursingに掲載され、今回の受賞となりました。



●本学留学生2名「台北市との小中学校友好交流推進員」に任命

5月11日（木）、人間社会学科4年生の台湾人留学生、黃子庭さんと吳 昕妤さんが松山市より「台北市との小中学校友好交流推進員」に任命され、委嘱式に参加しました。

今年は交流事業の回数も前年度より増える予定です。日台交流と理解に努力してまいりますので、応援のほどよろしくお願ひいたします。

●令和5年度愛媛県社会福祉法人経営青年会【学生との意見交換会】を開催

6月17日（土）13:00～16:00に本学1号館において、愛媛県社会福祉法人経営青年会の事務局を担っている愛媛県社会福祉協議会と本学人間健康福祉学部の共催で、社会福祉法人青年会と学生の意見交換会を実施致しました。

社会福祉法人は県内各所から10法人25名、学生は2回生から4回生まで合計54人参加しました。

意見交換はグループワーク形式で、1回20分、合計7回実施し、全ての法人と学生が意見交換を実施しました。

参加者の声として、青年会では、「学生はどのような基準で就職先を選定しているのかを知ることができた。」と言われていました。また、学生は、「今後の職業選択の参考になりました。」、「実際の現場の話を聞けて有意義でした。」、「いろいろな分野の話を聞けたのでよかったです。」など前向きな意見が多く寄せられました。

この取り組みは、年1回ですが、各法人が希望する人材と学生が希望する就職先などそれぞれについて意見交換できることで、双方にとって有意義な時間となっています。



●名誉学長称号授与式を挙行

6月23日(金)『聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部名誉学長称号授与式』を挙行しました。

ホビノ・サンミゲル氏は、昭和44年に来日し、日本国内の高等学校及び大学等において約55年間に渡りカトリック教育の普及に尽力されています。

聖カタリナ大学及び聖カタリナ大学短期大学部においては、22年間に渡り学長としてカトリック教育に尽力し、多大な功績を挙げられました。

学校法人聖カタリナ学園は、ホビノ・サンミゲル氏の長年に渡る功績に対し、深い敬意と感謝の意を表し、理事長 中田婦美子より名誉学長の称号を授与しました。



●ホビノ・サンミゲル前学長がローマ教皇フランシスコ様より

「ローマ教皇祝福状」を授与

6月23日(金)、ホビノ・サンミゲル前学長へローマ教皇フランシスコ様より贈られた「ローマ教皇祝福状」の授与が行われました。

この祝福状は、カトリック教育などに多大な貢献をされた方に対し、教皇様が聖母マリアの取り次ぎによって特別に祈りと祝福を与えた事を証明するものであり、大変名誉ある賞です。



●ホビノ・サンミゲル前学長が瑞宝中綬章を受章

本学のホビノ・サンミゲル前学長が、令和5年秋の外国人叙勲で受章されました。

賞 賜：瑞宝中綬章

功労概要：日本の私学教育の振興に寄与

ホビノ・サンミゲル前学長は、1969（昭和44）年に来日してから今日まで、日本国内の高等学校・大学等において教鞭を執られてきました。

2001（平成13）年4月から2023（令和5）年3月まで、聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部の学長を務められ、22年間の在任期間中に男女共学化や松山市駅キャンパスの開設など数多くの改革を中心となって取り組まれました。

来日してから約55年間の長きにわたり、カトリック教育の普及と推進に尽力し、日本の私学教育の振興に多大な功績を挙げられました。



●2023年度社会福祉士実習連絡協議会を開催

6月30日(金)13:00～16:00、ソーシャルワーク実習Ⅱ連絡協議会を開催しました。新カリキュラムとなり、初めての180時間実習が8月7日(月)から行われ、そのため、実習先施設・機関の方々と実習計画書や実習日程、実習内容等について意見交換を行いました。参加学生は、2月にソーシャルワーク実習Ⅰとして60時間実習を修了していますが、より深く実りある実習となるよう、積極的に質問する姿勢が見られました。



●人間社会学科 田村優佳准教授が法務省高松矯正管区長から表彰

人間社会学科 田村優佳准教授（心理学担当）が、愛媛県の少年院「松山学園」にて非行少年に対する更生支援を行ってきた実績が認められ、法務省高松矯正管区長からの感謝状を贈呈されました。

田村優佳准教授は公認心理師・臨床心理士資格を有し、2017年から、専門的な知見をもとに、少年たちが内省して感情をコントロールできるよう指導してきました。

学園での伝達式の様子について、NHKのニュースや愛媛新聞で報じられました。



●2023年度ボランティアーウィーク・ボランティアフェスタ開催

7月3日(月)から7日(金)はボランティアーウィーク、8日(土)はボランティアフェスタを開催しました。ウィーク期間中は、北条キャンパスでは短冊募金とフリーマーケット、松山市駅キャンパスと聖カタリナ学園高等学校では短冊募金を実施しました。4年ぶりの開催となったフェスタは、キッチンカーや福祉事業所、地域の方々にご出店いただき、来場者数は約200名でした。以前のようにたくさんのお子さんにも楽しんでいただき、学生たちは再開できた喜びを感じました。



●令和5年度「看護学科臨地実習連絡会議」を開催

7月5日(水)「看護学科臨地実習連絡会議」を開催しました。

本年は、臨地実習でお世話になっている実習施設の管理者・指導者の方々27名にご出席いただき、卒業生の国家試験合格状況、就職の状況、および看護実践能力等の到達度、ならびに令和4年度の全学年の臨地実習での学びをご報告し、令和5-6年度の臨地実習配置等の臨地実習に関する諸事項の共有と意見交換を行いました。ご多忙の中、ご参加いただいた方々に御礼申し上げます。



●「介護福祉事例研究報告会」を開催

7月7日(金)「介護福祉事例研究報告会」を開催しました。

社会福祉学科介護福祉専攻の学生（令和2年度入学）が、介護福祉実習第1期から第4期（464時間）の集大成として、現場実習で受け持たせていただいた利用者に対する介護過程をケーススタディとしてまとめ、発表しました。

施設長、実習指導者や介護福祉士会の方にもご来場いただき、求められる介護についての考察、自身の介護観について報告しました。



●南海放送株式会社と連携協定を締結

8月7日(月)、「聖カタリナ大学と南海放送株式会社との大学情報等の発信に関する連携協定（P A L協定）」の締結式が聖カタリナ大学北条キャンパスで行われました。

調印式では、南海放送株式会社代表取締役社長 大西康司様と坂原 明学長が協定書を交わしました。

締結式終了後には、南海放送ラジオ「エフナン」の生放送が行われ、坂原 明学長が生出演しました。

協定書では、お互いが持つ情報資源を活用することで、聖カタリナ大学の発展と活性化及びエフナン（南海放送ラジオ）の聴取人口の拡大を図ることを目的に連携・協力することを掲げており、今後、様々な活動に取り組んで参ります。



●令和5年度保育学科リカレントセミナーを開催

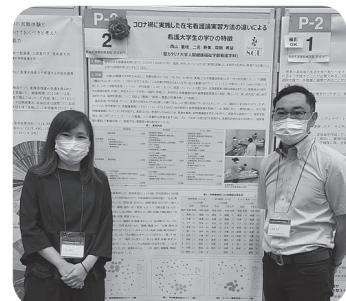
8月18日(金)に第23回目となるリカレントセミナーを開催しました。当日は本学の卒業生をはじめとする県内の幼稚園、保育所、施設などに勤務されている延べ45名の先生方に参加していただきました。

13時から「土粘土を用いた造形活動」「幼児期における人間関係の育みについて」の2つの講座、14時20分から「絵本で遊ぼう！」「ピアノ伴奏 悩み相談」の2つの講座を実施し、社会で活躍されている先生方に新たな知識・技術・技能を習得していただきました。また、多くの卒業生の皆様にも直接お会いすることができました。来年度も、引き続い参加の皆様とお会いできることを楽しみにしております。



●看護学科 西山里枝講師らが日本看護学教育学会第33回学術集会・示説育成部門で最優秀演題賞を受賞

8月26日(土)、27日(日)に福岡市で開催されました日本看護学教育学会第33回学術集会において、看護学科 西山里枝講師（筆頭）、齋藤希望講師、二宮寿美准教授による示説演題「コロナ禍に実施した在宅看護論実習方法の違いによる看護大学生の学びの特徴」が、示説育成部門の最優秀演題賞を受賞しました。



●第2回鍵盤楽器コンサートを開催

9月13日(水)、聖カタリナホールで第2回鍵盤楽器コンサートを開催しました。

本イベントは、(公財)松山市文化・スポーツ振興財団との連携協定に基づき、北条地域の7つの小学校の児童を対象とし、子どもたちに文化・芸術について広く興味喚起を図ること目的に行われました。

最初に鍵盤楽器コンサート実行委員会会長の人間健康福祉学部学部長 大黒屋貴稔教授より開会の挨拶がありました。

その後、演奏者 大澤宣晃氏をお招きし、パイプオルガンとピアノの演奏、各楽器の音の出る仕組み、時代背景などの解説をしていただきました。

当日は、北条地域の小学生・教員約350名（浅海、立岩、難波、正岡、北条、河野、粟井小学校）が参加し、音楽への興味・関心を高めることにつながるイベントとなりました。



◆◇ 令和5年度前期行事 (R5.4.1 ~ R5.9.30) ◇◆

月	日	曜	区	行 事
4	1	土	新任教職員研修	
			大 教授会、選考教授会、人間社会学科会議、健康スポーツ学科会議	
			短 教授会、人事教授会、保育学科会議	
	3	月	入学式	
			オリンピック (4/5)	
	5	水	学生生活委員会	
			カタリナウエルカムキャンパス	
	7	金	カタリナウエルカムキャンパス	
			会計監査 (4/11)	
	12	水	キリスト教研究所所員会	
			大 教務委員会松山市駅キャンパス会議、学生生活委員会松山市駅キャンパス会議	
5	15	土	カタリナウエルカムキャンパス	
			社会福祉学科会議、健康スポーツ学科会議	
	19	水	短 保育学科会議	
			理事会	
	22	土	短 オープンキャンパス	
			危機管理対策本部会議	
	25	火	大 教職課程委員会	
			障がい学生支援チーム会議、入試・募集委員会、募集対策検討委員会	
	26	水	大 人事委員会	
			就職委員会	
6	27	木	学園創立記念日、公開講座「風早の塾」聖カタリナ学園100周年プレイベント (オンライン後援会・バイブルガンミニコンサート)	
			会計監査 (5/12)	
	10	水	母をたたえる日、教授会、選考教授会、人間社会学科会議	
			短 教務委員会	
	11	木	母をたたえる日	
			地域連携推進会議	
	17	水	オープンキャンパス	
			人事委員会	
	19	木	財務委員会	
			選考教授会、社会福祉学科会議、健康スポーツ学科会議	
	21	木	短 保育学科会議	
			評議員会・理事会	
	23	木	奨学制度運営委員会	
			S D 委員会	
	7	水	クラブ活動協議会	
			大学説明会、広報委員会、ボランティアセンター運営委員会、障がい学生支援チーム会議	
			大 看護学科運営会議、教務委員会松山市駅キャンパス会議、学生生活委員会松山市駅キャンパス会議	
			教授会	
			オープンキャンパス	
			将来計画委員会	
			大 教授会、研究倫理委員会	
			短 保育学科会議	
			大 愛媛県社会福祉協議会学生との意見交換会	
			月 I R 委員会	
	20	火	大学訪問 (聖カタリナ学園高校)	
			短 人事委員会	
	21	水	看護学科研究科運営会議、看護学科会議、人間社会学科会議、社会福祉学科会議、健康スポーツ学科会議	
			教務委員会北条キャンパス会議	
	23	金	教務委員会・理事会	
			評議員会・理事会	

月	日	曜	区	行 事
6	28	水	SD 委員会、教学マネジメント委員会	
			短 中予私立幼稚園合同就職説明会	
			社会福祉実習連絡協議会	
7	3	月	ボランティアーウィーク (7/7)	
			財務委員会	
			大 看護学科臨地実習連絡会議、学生生活委員会松山市駅キャンパス会議	
	5	水	教授会	
			大 教職課程委員会、介護福祉事例研究報告会	
			土 ボランティアフェスタ	
	7	金	大 オープンキャンパス	
			大 学生活委員会	
			大 人事委員会、教授会	
	12	水	短 保育学科会議	
			大 オープンキャンパス	
			大 看護学科会議、人間社会学科会議、社会福祉学科会議、健康スポーツ学科会議	
	22	土	ナイトオープencキャンパス (松山市駅キャンパス)	
			火 大学祭パイプオルガン演奏会実行委員会	
			水 入試・募集委員会	
	25	木	大 就職委員会、研究科運営委員会、研究科委員会	
			人事委員会	
			理事会	
8	2	水	教授会、選考教授会	
			大 教務委員会松山市駅キャンパス会議	
			土 オープンキャンパス	
	3	木	大 オープンキャンパス	
			日 オープンキャンパス	
			月 オープンキャンパス、連携協定式 (南海放送)	
	9	水	大 研究倫理委員会	
			短 教授会	
			金 短 リカレントセミナー	
	18	木	将来計画委員会、奨学制度運営委員会	
			大 教務委員会松山市駅キャンパス会議	
			金 おでかけキャンパス in 松山銀天街	
	23	水	後援会役員会	
			木 夏季 S D 研修会	
			大 教務委員会松山市駅キャンパス会議	
9	6	水	F D 研修会	
			木 研究倫理委員会、学生生活委員会松山市駅キャンパス会議	
			金 第三者評議会、おでかけキャンパス in 松山銀天街	
	7	木	大 看護学科臨地実習指導に関する研修会	
			水 第2回鍵盤楽器コンサート、I R 委員会、奨学制度運営委員会	
			木 看護学科会議	
	8	金	短 教育実習連絡協議会	
			木 人間文化研究所フォーラム	
			水 おでかけキャンパス in 東予	
	14	木	火 社会福祉学科会議、健康スポーツ学科会議、教授会、選考教授会、人事委員会、看護学科臨地実習履修資格認定式	
			水 教授会	
			木 後学期ガイダンス	
	20	水	短 保育学科会議、保健講話	
			木 前学期卒業証書授与式	
			火 評議員会・理事会	
	24	木	日 おでかけキャンパス in 南予	
			水 入試制度W T会議	
			木 研究科委員会	
	27	水	水 公開講座第1回「風早の塾」、おでかけキャンパス in 松山銀天街	
			木 研究科委員会	
	29	金	金 公開講座第1回「風早の塾」、おでかけキャンパス in 松山銀天街	

◆◇ 令和5年度教授会議題（前期）◇◆

【聖カタリナ大学教授会議題】

R 5. 4. 1 第1回

1. 2024年度聖カタリナ大学及び大学院の入試概要の一部変更について
2. 退学について
3. 休学について
4. 除籍について
5. 聴講生の受け入れについて

R 5. 5. 10 第2回

1. 退学について
2. 休学について
3. 除籍について

R 5. 6. 14 第3回

※報告・連絡事項のみ

R 5. 7. 12 第4回

1. 退学について
 2. 科目等履修生の受け入れについて
 3. 社会福祉学科社会福祉専攻・介護福祉専攻の廃止について
- R 5. 8. 2 第5回
1. 退学について
 2. 聴講生の受け入れについて
 3. 前学期末卒業予定者の卒業の認定方法について
- R 5. 8. 2 第5回
1. 退学について
 2. 聴講生の受け入れについて
 3. 前学期末卒業予定者の卒業の認定方法について
 4. 聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部障がい学生支援規程の一部改正について

R 5. 9. 19 第6回

1. 前学期末卒業の認定について
2. 退学について
3. 復学について

【聖カタリナ大学短期大学部教授会議題】

R 5. 4. 1 第1回

1. 2024年度聖カタリナ大学短期大学部の入試概要の一部変更について

R 5. 5. 11 第2回

※報告・連絡事項のみ

R 5. 6. 8 第3回

※報告・連絡事項のみ

R 5. 7. 5 第4回

1. 学則の一部改正について

R 5. 8. 9 第5回

1. 聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部障がい学生支援規程の一部改正について

R 5. 9. 19 第6回

※報告・連絡事項のみ

力タにゃん
X(旧Twitter)



大学
公式LINE



大学公式
Instagram



受験希望
の方



大学HP



保育学科
ブログ



ご寄付のお願い【教育振興募金のご案内】

聖カタリナ学園は、2025年に創立100周年を迎えます。

聖カタリナ学園では聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部の教育事業を永続的に発展させるため、また、教育環境の維持、充実を図るための支援として、皆様からの募金のご支援を受け付けております。

趣旨をご理解いただき、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【お問い合わせ・お申し込み先】

学校法人聖カタリナ学園 法人本部事務局 〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地

TEL 089-993-1300 FAX 089-992-5616



◆◇ 令和5年度 クラブ等 活動状況 ◇◆

R5.9.1 現在

体育局(部)

団体名	期 間	大会名・イベント名等	開催場所	参加人数	成績・活動内容等
クライミング部	7/6~10	I F S C アジアコンチネンタルユースカップ	シンガポール	1	7位
	4/9	第62回全日本女子剣道選手権大会県予選会	愛媛県武道館	3	女子：出場
	4/16	第78回国民体育大会剣道競技（成年男子・成年女子）選手選考会	愛媛県武道館	2	男子：出場
	5/14	第70回中四国学生剣道選手権大会 第55回中四国女子学生剣道選手権大会	愛媛県武道館	5	男子：出場 女子：3回戦進出
	7/16	第62回大洲喜多剣道優勝大会	大洲市総合体育館	3	女子：3位
	8/6	第26回愛媛県レディース剣道大会	西条市総合体育館	5	女子：3位、ベスト8
硬式野球部	春季	令和5年度四国地区大学野球連盟春季リーグ戦（1部）	四国地方内	—	5位：4勝8敗
	8/14~16	第2回 U20野球交流戦	白杵市民球場 佐伯中央病院スタジアム	22	2勝3敗
サッカー部	通年	2023四国大学サッカーリーグ（1部）	四国地方内	—	2勝2敗1分（令和5年5月27日現在）
	通年	2023インディペンデンスリーグ四国	四国地方内	—	4勝（令和5年7月23日現在）
	通年	2023年度愛媛県サッカーリーグ（1部）	愛媛県内	—	3勝（令和5年7月9日現在）
	7/1・8・15	2023四国大学サッカートーナメント	高知県内	—	準優勝
	通年	2023四国大学サッカー新人戦	四国地方内	—	2勝1敗（令和5年6月17日現在）
女子 バスケットボール部	5/13・14・20・21	2023年度全四国大学バスケットボール新人大会	愛媛県内	17	優勝（全日本大学バスケットボール新人戦出場権獲得）
	6/5~8	第71回西日本学生バスケットボール選手権大会	丸善インテックアリーナ 大阪	15	3回戦進出
	7/10~13	第1回全日本大学バスケットボール新人戦	大田区総合体育館 エスフォルタアリーナ八王子	12	出場
女子 バレーボール部	5/13~14	2023年度第52回四国大学バレーボール春季リーグ戦大会	愛媛県総合運動公園体育館	9	Ⅲ部準優勝
ダンス部	4/29・30	ダンス公演（春の坊っちゃん屋台祭り）	松山市中央公園坊っちゃんスタジアム外周	4	
	7/29	ダンス公演（たそがれマルシェ）	モンチッチ海岸	5	
	8/11	松山まつり「野球拳おどり（団体連の部）」	松山市内	60	優秀賞「N H K 松山放送局賞」

文化局（同好会）

団体名	期 間	大会名・イベント名等	開催場所	参加人数	成績・活動内容等
学生赤十字奉仕団	通年	啓発活動（献血）	愛媛県赤十字血液センター 一大街出張所	—	献血の呼びかけ、献血ルーム内の案内
	6/17	青年赤十字奉仕団連絡協議会総会・研修会	日本赤十字社愛媛県支部	4	

その他団体

団体名	期 間	大会名・イベント名等	開催場所	参加人数	成績・活動内容等
学生 ボランティアセンター	7/3~8	ボランティアウィーク・フェスタ	聖カタリナ大学北条キャンパス	—	フリーマーケット

◆◇ 人 事 ◇◆

《令和5年9月30日付け》

【退職】

（北条キャンパス）

人間健康福祉学部

教授

矢島 伸浩

《令和5年10月1日付け》

【新規採用】

（松山市駅キャンパス）

人間健康福祉学部

助教

渡邊 朱美

◆◇ 研究室探訪 ◇◆

聖カタリナ大学 人間健康福祉学部 健康スポーツ学科
助教 馬越 千里

昨年4月に本学に再赴任いたしました。私の専門分野は剣道（武道）です。女性剣道と段位制度と幸福度の関連について、社会学・ジェンダーの視点から研究に取り組んでいます。専門競技は剣道、競技歴は数えてみれば30年以上、今も現役選手として本学の剣道部員と共に稽古に励んでいます。再赴任して2年目となりましたが、これまで学務・研究・部活動・家事・子育て・競技活動に奮闘する日々で、本当にあっという間でした。これまでの振り返りをする間もなく過ごしてきたので、今回の執筆の機会をいただけたことで、改めて自分の方向性や気持ちを整える良い機会となりました。

私は、2011年に結婚を機に一度本学を退職しています。その後、再赴任にいたるまでの経緯を少しお話させてください。結婚後、2013年に長女を無事に出産しました。26時間かかったお産は今でも鮮明に覚えています。一般的には難産というのでしょうか。それはもう大変でした。それでも、乗り越えれば我が家に会えるという一心で必死に立ち向かいました。このように、目標達成のために立ち向かう精神力の強さは、長年の競技生活とお産の経験で培われてきたものだと思っています。産後は約3ヶ月で競技生活に復帰しました。2017年に「えひめ国体」を控え、夫婦共に剣道の候補選手だったため、母として子育てに専念する時間はほとんどありませんでした。娘が1歳になり、公務員としてフルタイム勤務にも復帰し、さらに忙しい日々を送ることになりました。迎えたえひめ国体では、沢山の方々の支えもあり、4年間の強化期間を乗り越えて夫婦で出場し、目標であった優勝という最高の成績で終えることができました。

このとおり、私は剣道と密接な時間を過ごしてきました。2022年の再赴任の決意の背景には、これまで培ってきた剣道のキャリア、女性としてのキャリアを活かし、大学教員として、現状としてまだまだ少ない女性の武道研究者、剣道教育者として研鑽を積み、剣道界と本学に貢献するという使命感を感じ

たことに他なりません。

毎日が勉強であり、新しい発見がある中で、大学という場所には本当にやり甲斐を感じています。それは、「学生」というかけがえの無い存在があるからです。日々のやり取りに加え、ゼミや授業の時などに、分かりやすい授業を考えるうえで、学生に「これはどうしたらよいかな?○○さんならどうする?」など聞くと、なかなか良いアドバイスが返ってきます。時には手を焼くこともありますが、学生の存在はとても心強く、励みになっています。

研究者・教育者としてまだまだ未熟な私ですが、先ほど述べた使命感のもとに、剣道界と本学に貢献していくことが目標です。平坦な道のりではありませんが、再赴任を決意した時の「初心」を忘れずに、家族と協力しながら取り組んでいきたいと思います。



聖カタリナ大学・短期大学部学報

〒 799-2496 愛媛県松山市北条660番地

T E L. 089-993-0702(代)

<https://www.catherine.ac.jp>

編集・発行

広報委員会

kouhou@catherine.ac.jp